

## 第1回 東北圏広域地方計画懇談会議事概要

### 1. 日時

平成19年7月23日（月）13:00～16:00

### 2. 場所

仙台国際ホテル 広瀬

### 3. 出席委員（敬称略）

森杉座長、柴田副座長、有田、家田、生田、稲村、今村、大泉、大滝、尾形、北原、清水、中出、服部、浜岡、宮原、元田、吉田、若菜、渡部

### 4. 議事（概要）

#### （1）開会

#### （2）委員紹介

#### （3）東北圏広域圏地方計画懇談会の設立

##### ①懇談会開催趣旨

##### ②規約案

規約案について了承された。

##### ③座長選出

委員の互選により森杉壽芳委員を座長に選出した。また、森杉座長が副座長として柴田委員を指名した。

##### ④座長挨拶

#### （4）

##### 議題①：「国土形成計画の概要」について

事務局から資料3について説明。

##### 議題②：「全国計画素案と東北圏広域地方計画の構成イメージ図」について

事務局から資料4について説明。

##### 議題③：「東北圏の概要」について

事務局から資料5について説明後、質疑応答、意見交換。

##### 議題④：「課題総括と論点」について

事務局から資料6について説明後、質疑応答、意見交換。

##### 議題⑤「今後の進め方」について

事務局から資料7について説明後、3小委員会の設置を決定。

森杉座長から各小委員会の委員長が指名され、計画フレーム小委員会（仮称）委員長は柴田委員、産業振興・グローバル化小委員会（仮称）委員長は大滝委員、持続可能な地域社会小委員会（仮称）委員長は、鈴木委員に決定した。（鈴木委員は当日欠席のため、後日事務局から説明し了承を得た）

(5) その他

各委員に対し、東北圏広域地方計画検討のためのご意見等の提出のお願いをした。

(6) 閉会

5. 主な発言内容

- ・防災・減災において、「しなやかな」対策を自然の豊かで土地にも余裕がある東北から具体化する必要がある。効果的で継続的な要素が重要。
- ・東北地域では、原子力施設が多く、ここでの自然災害や事故に対する安全確保が益々重要である。施設内部での対応だけでなく、地域連携したものが不可欠。
- ・今度の国土形成計画は、人口減少について考えるという国土計画上の転換点になるので、これまでの東北の開発の歴史を追加資料としてまとめる必要がある。
- ・地域のなかの資金循環を考えるに、資料5の東北の移出入、輸出入について分析が必要である。
- ・水産業の分析データについて追加が必要である。また、雪だけでなく「やませ」についても考えなければならない。
- ・観光は観光消費額の観点でデータ収集し、経済波及効果等の分析が重要である。
- ・現状分析において、中山間地を特別視しているが、都市と農村の境目辺りにも問題が発生している。この中間領域的な部分についても分析が必要である。
- ・シームレスアジアの視点での論点整理も必要である。
- ・リサイクル関係は、地域内経済循環システムの構築からもビジネスチャンスとして考えられるのではないか。
- ・景観については、自然景観だけでなく都市景観も含めて議論していきたい。
- ・地域循環型産業を伸ばす条件を考えることが重要で、例えば、農業において、農業産出額は宮城県の1500億に対し、千葉県は4000億となっており、これは、産業創出力・技術力やマーケティングの違いによる。このようなことを探る作業を行い、事業創造・構造のパターンについて議論していきたい。
- ・農村と都市が一体化した生活圏域をどのようにして豊にしていくか、イメージすることが重要である。例えば都市をどうコンパクト化し、そこに農村はどうアクセスするかなど。
- ・具体的事業は、全国計画には記載されないが、広域地方計画にはどこで何をするか書き込んでいくこととなる。社会資本整備重点化計画ともリンクするので、時間的余裕がない中で、戦略論と具体論を一体的に議論すべきでないか。
- ・今回の計画において重要かつこれまでの計画と違うところは、一つはアジアの中において、各ブロックは戦略的にどうするか、もう一つは、人口減少下で何をするかである。この二つだけは各ブロック様子が違うので、「東北ならでは」を重点的に議論する必要がある。
- ・少子高齢化における都市形成を考えた場合、医療と教育が一番必要となる。大学より高校生の教育を担えるのか考えた場合、都市圏がどのように構成できるかが重要。

- ・D I Dが無くなった市町が東北にも3つある。ある種の地域の牽引核のところが集積を薄くしていたり、無くなっている可能性がある。このようなローカルな地域圏をどうやって維持していくか議論が必要である。
- ・ライフスタイルとして、持ち家住宅が最後のゴールではなくて、ライフステージに合わせて住み替えていけるよう誘導する政策が必要。
- ・東北圏の中でもいろいろアイデンティティがあるので、同じ方向を向けない場合、幾つかのエリアに分けて連携するようなことも東北らしさを出すときに重要になるのではないかと。
- ・高速道路だけでなく、それに接続する国道等のネットワークも重要である。
- ・公と民の役割の定義づけが曖昧となっている。また、公と民の中間領域の「共」というものもある。やるべきことを峻別すべきである。
- ・論点のプライオリティを付けるべき。東北の地域振興を考えるにあたり、何が最も重要か議論すべき。
- ・東北において観光交流が重要である。アジアの人たちは食の安全安心の面からも東北の郷土料理に関心を寄せている。また、観光交流という観点から、どこのインフラ整備が必要でアクセスをどうするか、域内交通をどうするか、景観や限界集落も旅行の対象地として残すかなどといった議論を十分に行いたい。
- ・農村に住みたいという人が増えている。東北らしい美しい農村を考え、残る農村、消える農村をきっちり考え人口減少に対応すべき。
- ・行政サービスの面からも今後、都市のコンパクト化や集落の再編成をやらざるを得ない場合がでてくる。今から先を見越して今から検討する仕組みをこの計画で言うべきである。
- ・東北固有の地域像をどうするのか。国土の農地や林地の国民的管理が言われているが、農地・林地に30分以内にたどり着くようでないとは期待できない。こういうことを含め地域像をどうするか考えるべき。
- ・直近10年よりもっと先を見て新しい東北像を検討すべき。医療についても病気にならない生き方や生活のあり方を考え、低農薬の食材の提供等により「東北に来ると健康になれる」といったものを東北の魅力として複合的に考えることも必要。
- ・青森のリンゴなどを海外に輸出しているが、東北の港は利用しにくい状況にある。機能を集約してもっと内容の濃い国際港が東北に必要と感じている。
- ・森林の多い東北は、国の環境問題を解決する役割がある。林業は、地球環境問題を考えると市場メカニズムに入る可能を持っている。さらに、森林は産業としてだけでなく、自然との共生、地域の文化再生による新たな観光やライフスタイルにも影響を与えるのではないかと。

(速報のため、事後修正の可能性あります)